



員数	1基
指定	国
種別	重要文化財 / 建造物
時代	江戸前期 正保2年(1645)
管理者	氣比神宮
所在地	敦賀市曙町
指定年月日	明治 34.3.27
指定番号	建 0185

氣比神宮は、弘仁元年（810）の創建と伝えられる越前国一の宮で、古代・中世にはその勢力を誇ったが、戦国の動乱期に朝倉氏とその命運をともにした。その後、慶長年間（1596～1614）に結城秀康の援助を受け復興を遂げた。

本殿は、三間社両流造という独特の形式を持ち、近世初期を代表する建築であったが戦災で焼失した。大鳥居は、康永2年(1343)の暴風で倒壊していたものを、**正保2年(1645)に佐渡から流れてきた大木を用いて再建したと伝えられている。**木造朱塗の両部鳥居で、高さ10.93m、支柱間7.45mである。笠は銅板で葺き、八角の控柱の上に笏谷石製の笠を載せ、基礎部もまた笏谷石とする。大規模な漆塗の鳥居である。

から5代目平松周家「社記」には、佐渡から流れてきた大木等とは書いてないため、問い合わせました。
氣比神宮大鳥居についての回答

小松邦子 様

秋晴の候、小松様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は、文化財行政にご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、小松様にご指摘いただきました氣比神宮の大鳥居について、関係書類や関係者について調査しましたことをご報告させていただきます。

氣比神宮の大鳥居が国重要文化財に指定された日が、明治34年3月27日であったことから、その指定当時の文章が残っていないか文化庁や県庁等で調べました。しかし、昔のことでもあり、その当時の文章や経過については確認することができませんでした。

そのため過去の経過について分かりませんが、この度、小松様にご送付、ご指摘いただいた「氣比宮社記」に書かれてある内容を課内で共有し、話し合いをした結果、ホームページの記載を「「氣比宮社記」によると、大鳥居は康永2年(1343)の暴風で倒壊していたものを、正保二年に佐渡から調達した榿の木で再建されたと伝えられている。」と修正することにしました。

ご指摘、ご配慮いただきありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

福井県生涯学習・文化財課